

2つの場所で起こること

イタリアのある街を旅行している時、それほど大きくはない広場の角に小さな教会を見つけました。その教会の入り口には少し幅の広い階段があって、3人のおばあさん達が立ち話をしていました。その日はすごく蒸し暑い日でみんな日陰に立っていました。その横では小学生くらいの二人組が階段に腰掛けて、また何やら別のことを話しているみたいでした。一人は日向に、もうひとりは日陰にすわっていました。ヨーロッパを旅行しているときよく目にする風景です。

僕は彼らの間を通りぬけてその教会に入りました。教会の中は少しひんやりとして、とても静かでした。教会の中はうす暗くて、天窗から光はいり込んで来ていました。薄暗い教会の中で、その窓からはおどろくほど強い光が降り注いでいました。中では40歳くらいの男の人が一人で、椅子にすわっていました。彼は微動だにせず座っていました。もしかしたら寝ていたのかもしれないし、お祈りしていたのかもしれない。僕がそこにいる間、何人かの人がこの教会に入ってきてそして出て行きました。お祈りをして帰っていく人、僕のような観光客、いろいろの人が入っては出ていきました。3人組のうちの一人のおばあさんも中に入ってきて、お祈りをして出て行きました。その男の人は僕が教会にいる間ずっとそこに、とても静かに座っていました。

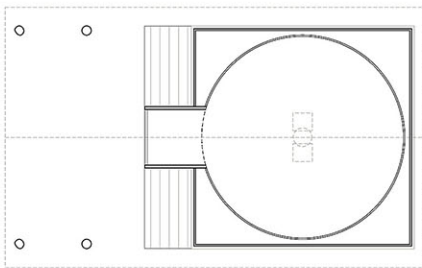
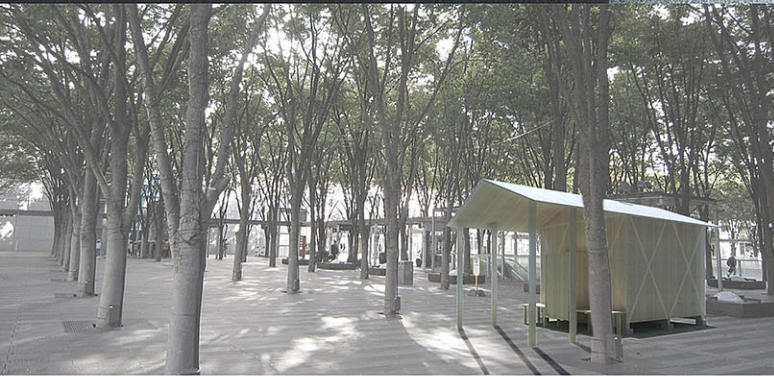
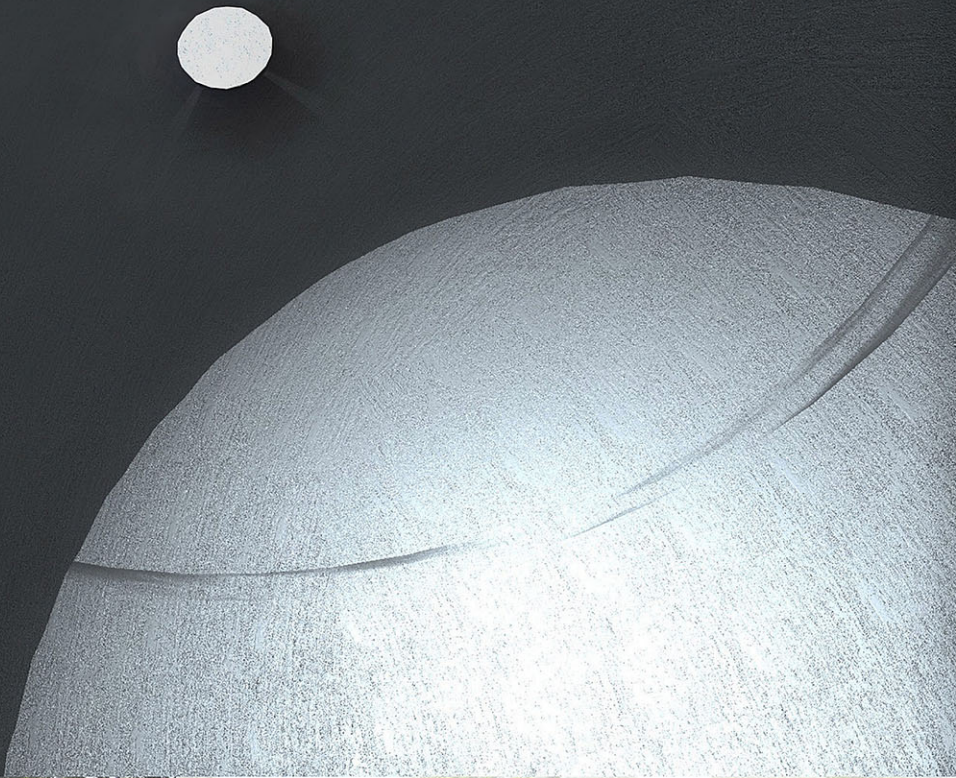
教会から出たとき、小学生くらいの二人組はもういませんでした。3人のおばあさん達も二人になっていました。薄暗いところにいたので、外にいるのがすごくまぶしくてサングラスをかけました。のどが潤っていたので、水を少し飲みました。少しの間、教会の入り口から、その広場を眺めていました。

「パーソナルスペースを生み出すことのできる、街に開かれた「小さな家」は二つの異なるスペースをもったものではないかと思っています。木造のベンチのように「街の一部になる部分」、それから、街に対してある程度「閉じられている部分」です。「街の一部になる部分」では街の様子を感じることができるし、街からもそこにいる人々を見ることができます。「閉じられている部分」からは街の様子は直接見えず、街からも中の様子は見えません。

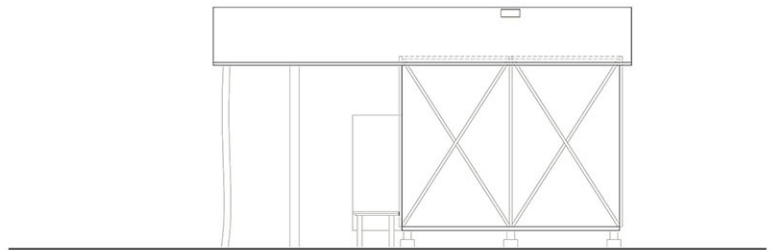
このふたつの部分を持つ小さな家をさいたま新都心のけやきひろばにおいてみます。スターバックスで飲み物を買った女子高生が外に座っておしゃべりをしています。そのうち、中へ入ろうという話になって、彼女たちのおしゃべりは閉じられた空間で、よりプライベートな内容へとうつろいでいくかもしれません。

また、住宅街の中のある小さな公園においてみます。犬の散歩中のおじさんが犬を抱えて中に入って、犬の暖かさを感じながら、少し薄暗く静かな場所で犬と一緒に居眠りをしてしまうかもしれません。その外では、幼稚園帰りの子どもたちが緑豊かな場所を何をするかなくじやれているのかもしれない。

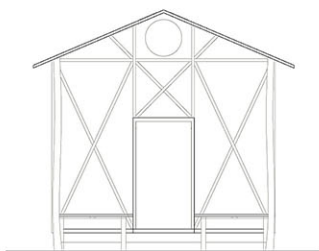
日常のすぐとらには少しだけちがった非日常があって、その二つの異なる空間が、お互いを引き立てあうように、場所と経験を作り出すのではないかと思います。



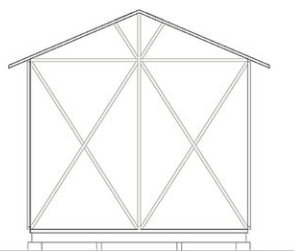
平面図



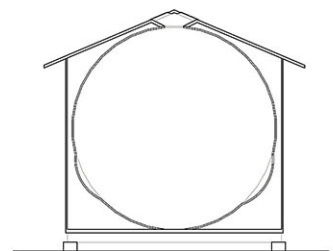
立面図 1



立面図 2



立面図 3



断面図

0 1 2 3m